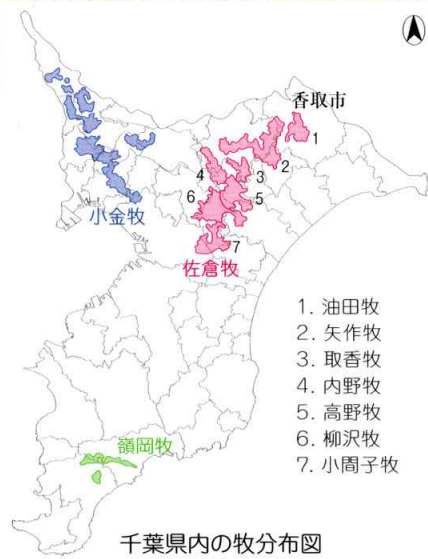


## 牧・馬牧とは？

江戸時代、軍馬を育てるために幕府直轄で経営した牧場で、そのほとんどが千葉県内に集中します。

千葉県には大きく分けて小金牧・佐倉牧・嶺岡牧の3か所があり、油田牧は、そのうちの佐倉牧のひとつです。

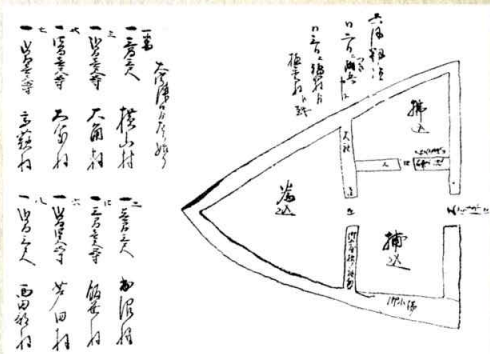


1. 油田牧
2. 矢作牧
3. 取香牧
4. 内野牧
5. 高野牧
6. 柳沢牧
7. 小園子牧

## 油田牧の野馬込の絵図

全体が三角形で内部が3区画に分かれています。江戸時代の絵図と変わらない姿で現在も残っています。

また、この絵図によって、三つの区画が「捕込」「溜込(溜込)」「払込」であることがわかります。



「油田牧捕込場」(酒々井町島田家文書、酒々井町教育委員会提供)

## 野馬の飼育

江戸時代に描かれた油田牧の様子です。牧では、半ば野生状態の馬を放し飼いで育てていました。

油田牧では、記録によると、寛政10(1798)年には148頭、天保3(1832)年には132頭、弘化3(1846)年頃には100頭の野馬が飼育されていたようです。

馬の管理や土手の修復などの用務は、現地役人である牧士の指揮のもと、周辺の村々が負担しました。



「油田の牧」(「下総名勝図絵」弘化4・1847年頃、香取神宮提供)



「野馬捕其二」(同左)

## 野馬捕りのようす

江戸時代に描かれた野馬捕りの様子です。牧士と呼ばれる役人や大勢の勢子人足によって野馬を野馬込に追い込む様子を描いています。

野馬込の中には江戸の役人が検分したと思われる建物があります。また、土手の上や周りには多くの見物人が集まり、それを当て込んだ商人が出店を構えたと思われる小屋も見えます。

## 捕込 (とっこめ)

この区画に馬を追い込んで選別します。選別した馬は、溜込と払込に分けて入れます。

## 払込 (はらいこめ)

野に返す若い馬を入れる区画です。

## 国指定史跡範囲

## 溜込 (ためこめ)

幕府に送る馬や、農耕馬などとして農民や町人に払い下げる馬を入れる区画です。

①～⑤は右の写真番号に対応

40m

今回、史跡に指定されたのは、毎年1回、牧に放牧されている野馬を追い込んで集め、幕府へ送る馬などを選別した「野馬込」の跡です。

この行事は「野馬捕り」と呼ばれ、牧場最大の年中行事でした。野馬込跡の内部は、「捕込」「溜込」「払込」の三つの区画に分かれています。

